肝炎感染者が国民の9%に上る西アフリカのブルキナファソ。自身も恩師を肝炎で亡くした榛田は「日本も同じ病に苦しめられてきました」と同じ目線で患者に語りかけます。「肝炎との闘いは私たちも通った道。日本にはまだできることがある」現地の状況を見て榛田はそう確信しました。 撮影：2024年6月1日 ブルキナファソ・ボボディラッソ

年次報告書 2024

2024.2.1-2025.1.31

Special Interview

危機に直面する今、考える〈未来はどうつくるのか〉

大西 健丞
ピースウィンズ・ジャパン代表理事

×

宮田 裕章
データサイエンティスト
慶應義塾大学医学部 教授

2015年。二人は、厚生労働省が主催する会議で初めて顔を合わせました。20年後の2035年に向けた保健医療政策ビジョンを構想する「保健医療2035」策定懇談会。そこでは若手有識者による自由闊達な議論が行われ、宮田教授と大西は隣の席だった縁もあり、お互いの発言に深く感銘を受け、リスペクトし合う間柄に。医療政策も含めさまざまな社会変革に、データサイエンスを駆使して挑む宮田教授と、NGOという立場から挑む大西。迫り来る大地震、温暖化による自然災害の増加、緊迫する東アジア情勢など、さまざまな危機に直面する時代に、二人はどう未来へ歩みを進めるのでしょうか—。

生成AIが教育を変える

大西　宮田さんには感謝しています。初めてお会いしたのは10年前の「保健医療2035」でしたよね。医療関係者がほとんどの中で、異色のメンバーだった僕が突拍子もないことを発言しても、宮田さんは良き理解者となってくれました。それが温かくて楽しくて。いろいろと教えていただきました。

宮田　こちらこそ。当時からすごい人だなとリスペクトしていましたが、今飛騨高山での新しい大学の開設、大阪・関西万博のプロデュースに取り組む中で、大西さんのお話とつながることが多いです。ピースウィンズの本部を広島県神石高原へ移転して地域創生に取り組んでいるお話など、「未来をどうつくるか」学ばせていただきました。

大西　新しい大学では、リベラルアーツを重視されるんですよね。

宮田　そうなんです。**生成AIの登場により、教育そのもの、社会での能力の活かし方が、根本的に変わりました。**これまでの教育モデルは、青年期に筋トレのようにひたすら知識や技術を習得して、社会の歯車として役立つようにするものでした。これがGoogleの登場で知識自体の価値が薄まり、生成AIの登場で完全にとどめになりました。AIはすぐに専門家レベルまで学習するため、詰め込み教育によって生まれたエリートが社会を回すモデルが、もう“オワコン”なのです。

これからの社会では、用意された問いに対して覚えた知識で答える力は要らず、**実践の中で「問いを立てる」力が必要**になってきます。大西さんが現場で問いを立てて社会課題に向き合っているように。**社会の中でどういう視点でモノを見るのか=どう問いを立てるかを学ぶリベラルアーツは非常に重要**だと考えています。

「保健医療2035」策定懇談会とは・・・

厚生労働省の主催で、2015年に計8回開催。座長は渋谷健司（現ピースウィンズ理事）。宮田教授と大西を含む14人のメンバーと、4人のアドバイザーで構成。2035年を見据えた保健医療政策のビジョンを示すため、国民の健康増進や、保健医療システムの持続性確保、国際的な貢献など検討。議論の内容は提言書にまとめられた。

大西　昔はアートと信仰と科学は一緒に考えられていて、それらはリベラルアーツだったわけですもんね。

宮田　リベラルアーツで広く学びながら、必要なモジュールを専門として組み立てられる力が重要になってきています。今の大学教育は、専門家が自分の領域だけ断片的に教えているので、俯瞰的にモノを見る力が弱くなっており、それを問い直す必要があります。

大西　なるほど。大学を多拠点化するという発想も面白いですね。

宮田　新設予定の大学では、岐阜県飛騨市の本校キャンパス以外に、札幌市、仙台市、石川県中能登町、京都市、鳥取市、福岡市などの各拠点でも学べる仕組みをつくり、全国の地域課題の解決に取り組んでいく予定です。**いろいろな拠点を巡って生きる、学ぶ、働く、課題を解決する。そういう時代になってきている**のかなと思います。

民間を活用し、有事と平時のビジョンづくりを

宮田　大西さんをリスペクトする部分は、官に任せるだけでは欠ける視点があるので、**民の立場から必要なものを必要なタイミングでしっかり届ける**んだという姿勢です。

　コロナ対策の際、僕は厚労省の中には入らず、研究者の立場として、外から協力し、時には異論を唱えました。感染が拡大した際、検査能力が足りず批判を浴びましたが、数兆円かけて検査体制を整えるより、GoogleやLINEで収集したビッグデータを活用して感染者の全体像を掴むことを提案し、採用されました。やはり官が有事のために全部用意するのは、コスト的にも回らない。**官と民で有事を想定しながら一緒に動き、緊急時に協力できる仕組みこそが、未来を支えていくことにつながる**と思ったんです。

大西　「保健医療2035」の会議で感染症の専門家が「いずれ感染症が世界的に蔓延する」と予測していたため、私たちはコロナ

流行の4年ほど前に佐賀の倉庫を借りて、5〜6万人分のN95マスクや防護服など多くの物資を備蓄。そのため、感染が拡大した際にすぐ老人施設や病院に入ることができ、35か所でクラスター対応を行えました。不足していたN95マスクやガウンを全て無料配付し、2年間でのべ6,000以上の医療機関や福祉施設に支援を届けました。

宮田　それはすごいですね。

大西　無責任なのは政府ですよね。僕らが災害対応で現場に入って、基礎自治体にないものを代替して、自己資金で提供しても、国からの費用弁償が1円もない。援助すればするほど資金がなくなる“援助貧乏”です。

　日本には、「非戦力を戦力化する」という戦略がない。今の法律では基礎自治体が災害対応の責任を負わされているので、行政職員も被災者なのに、昼夜問わず働かされてボロボロになっていく。**民間をうまく使って、国は基礎自治体だけに任せる方法から転換すべき**です。

宮田　防災省という話も出ていますが、適切なビジョンを根本から設計した方がいいでしょうね。**民間が使った災害対応費は国から補填されるなど、報われるようにしていかないと続かない**と思います。

大西　実は東日本大震災の時、前方展開する自衛隊5万人分の食料を現地へ送れなくなり、最初2週間、重労働をしながら1日1〜1.5食でしのいでいました。自衛隊トラックの輸送量よりも、民間（特に引っ越し業者）の輸送量の方が多いのですが、あの時、民間業者は被災地入りを止められました。緊急援助のイロハの「イ」ですが、最初の混乱期は仕分けせず、どんどん物資を運ぶべき。後から中間仕分け施設をつくり、秩序を回復していけばいいんです。

宮田　民間の輸送業者も協力できる仕組みをつくるべきですね。機動的に動けるのは民間なのですから。**公助か自助かという二択ではなく、互助という民間も含めたコラボレーションによって支え合う**領域こそが、予測できない規模の有事の際にバッファーをつくれるはずです。台湾有事についても想定すべきタイミングですよね。

大西　台湾の方々だけでも2,400万人。あっという間に飢餓の問題、医療品の不足など、いろいろな問題が出てくるので、海上の人道回廊をつくることも想定しなければなりません。**起こらないかもしれないけれど起こる確率がかなり高いものに関しては、バックアッププランやコンティンジェンシープラン（緊急時対応計画）が必要**ですが、日本では起こってほしくないことは起こらない、という考え方が浸透していますよね。

宮田　ピースウィンズでは、船やヘリコプターを、平時は地域医療や観光などに活用し、有事の時にはすぐに出動できる仕組みを整えていますよね。そういう組織があることは日本にとって非常に大きい。さらに平時には、地域の魅力を発信して地域経済を回し、過疎地の課題まで解決しています。**有事の対応力と平時の豊かさのバランスを保ち、両方花開かせるデザイン**には、大きな可能性を感じます。

大西 健丞

Kensuke Onishi

ピースウィンズ・ジャパン代表理事
兼 統括責任者

Profile

1967年生まれ。大阪府出身。1996年にピースウィンズ・ジャパンを設立。国内外災害支援のCivic Force設立に携わる。また、アジア太平洋の総合支援地域国際機関A-PADのCEOに就任。06年にダボス・ヤンググローバル・リーダーに選出。24年に経済同友会 副代表幹事にNPO代表として初めて就任。

宮田　また、国全体としては、官民連携のあり方、有事と平時に協力できるネットワークの構築など、**中長期的なビジョンづくりと、今すぐ使える仕組みづくりを合わせた、グランドデザインを描くことが必要**です。

企業も利益追求から社会課題解決へ

大西　実は今、NGOなのに経済同友会の副代表幹事を拝命しています。NGOやNPOは、官との関係はもとより、企業との関係性も大切。スタートアップの方々は、利益のためではなく、新しい価値を生むことを目的に動いているので、我々の社会貢献活動に共鳴して支援してくれます。一方、大企業はやはり利益追求という面が強いと思っていましたが、近年はそれも徐々に変わってきていると感じています。これからは**企業社会のマインドセットを変える**というのが重要になってきますね。

宮田　確かにこの30年、利潤追求や株主満足を優先してきた大企業が、今デジタルですべて可視化されて、社会貢献を無視していたら市場・顧客・投資家から相手にされないと気づき始めたのでしょうね。環境、平和、人権、ウェルビーイング、人道支援、有事対応に至るまで、**企業が「未来につながる軸」に貢献する一翼を担うべきというフェーズ**に入ってきていると思います。

インドの新しい会社法では、利益の2%以上をCSR活動に支出することが義務付けられました。日本には大量の内部留保があるので、インドの成果を見ながら日本で導入するのもアリかなと思いました。

大西　内部留保はバブルの時に140兆円ぐらいだったのが、2023年度末には600兆円に膨れ上がっています。その**一部でも、寄付やインパクト投資に使ってもらえたら**と思いますね。

宮田　日本とアメリカのGDPは、バブルの時に肉薄していましたが、今は絶望的に差があります。アメリカ企業は利益の3倍使うけれど、日本企業は3分の1しか使わないために、成長機会を損失しているんです。内部留保を未来のために使っていく流れができれば、日本はもう一度立ち上がることができると思います。

大西　NGOやNPOを、「非営利」「ボランティア」と位置づけすぎないで、一つの産業として見てほしいです。そこで多くの優秀な人が働き、社会を良くする事業をしているのですから。海外では、一流企業からNGOやNPOへ移ったり、政府の幹部として活躍したりする人もいます。**内部留保の流動化に加えて、優秀な人材も流動的に動けたら、日本にとってインパクトが非常に大きい**と思います。

ともに未来をつくる

大西　地質学者たちが、これから「危機の15年から20年になるだろう」と予想しています。安穏としていられない時代が来るのかなと。

宮田　間違いないですね。大災害や有事を想定し、アメリカやグローバルサウスなど、さまざまな国と価値観を共有しながら、未来をどうつくるのか、早急に検討しなければなりません。

大西　その通りですね。でも、日本は内向きになっているので、変化に対応できるのか不安があります。

宮田　日本人のパスポート保有率は17%に低下。円安で海外に出られない人も多いのですが、出なくてもいい・出たくないという人が多いです。内向きになっている日本人に、どう外を見てもらうか。

大西　海外に出て思うのは、アメリカや中国はいろいろな分野で国外に出て交渉できたり、協調できたりする人材の層が非常に厚い。日本は残念ながら卵の殻みたいに薄くなっているような気がします。

宮田　日本にグローバル人材が不足している要因として、一つ研究で分かってきたのが、言語習得の壁です。例えば、フランス人は英語の習得に400時間、日本語の習得に2000時間、実に5倍もかかりました。日本語と英語は、言語として相当遠いので、習得できる人数が少ないのは当然なんです。今後、翻訳アプリの精度も上がるでしょうから、「アプリを使って広く学ぶコース」と「言語マスターコース」に分けて教える方法

もあります。**グローバル人材を育成するため、語学教育そのものを再構築する**必要も出てくるでしょう。

大西　最近、官庁のトップの方々と話すと、嘆きとして出てくるのは、「優秀な人材が来ない」ということですね。

宮田　官庁は、その公益性やミッションを明確にして、古い年功序列をやめて、優秀な人材がやりがいのある仕事を担当できる形にしないと、人が集まらないと思います。

大西　我々も古いタイプのNPOではなく、社会にイノベーションを次々と起こせる組織になるべく、**国際協力NGOから「ソーシャルイノベーションプラットフォーム」**に定義し直してアピールしています。

宮田　大西さんはかねてより「シビルソサエティ」（民間が公共を担う社会）を主張し続けていましたが、まさにそんな時代が来ましたね。

僕は「未来予測論」が好きじゃない。**未来は予測するより、つくった方が確実だから**です。未来という規模になると、一人では無理で、皆で一緒につくるしかない。今、僕がプロデュースしている万博のパビリオンのテーマは≪Better Co-Being≫（未来を見て、ともに生きる）。現在軸だけで考えると折り合いがつかないことも、未来はどうあるべきかと目線を少し上げると考え方も変わってくると思います。

大西　僕にとって「ともに未来をつくる」は、**「平時と有事に対応できる存在をつくる。特に民間の力を結集する」というのがテーマ**ですね。

宮田　大西さんのように、リアリティを持って有事を想定して動ける人、あるいは備えを作れる人って、日本ではすごく貴重だと思います。僕にとって「ともに未来をつくる」は、**研究者としてソリューションを提示すること**。視点が違っても、大西さんと重なる部分は非常に多いし、これが合わさることでパワーが生まれればと思います。

大西　ついにアカデミズムでもそういう流れが出てきたし、我々も古いところは考え直して、新しいチャレンジを常に続けていけるような存在でいたいと思います。今日はありがとうございました。

対談の動画はこちらからご覧いただけます。 »

収録日：2024年10月23日

14枚のガラスに映る希望、そして未来

今回対談を行ったのは、瀬戸内海に浮かぶ「豊島」。ここには、アートを通じた地域振興を目指し、ピースウィンズが保有している、現代美術の世界的巨匠ゲルハルト・リヒターの立体ガラス作品があります。作品を鑑賞した宮田教授は、「14枚のガラスに映る、豊島の移りゆく自然。明日に向かって夕陽が落ち、ライトが灯り共鳴する景色が、明日へ無限に広がる希望や未来を表しているようでした。毎分変わる一期一会の体験ができる素晴らしい作品です」と感動を表現しました。

宮田 裕章

Hiroaki Miyata

データサイエンティスト
慶應義塾大学医学部 教授

Profile

1978年生まれ。岐阜県出身。医療データサイエンスの分野で活躍する研究者。東京大学大学院医学系研究科医療品質評価学講座教授などを経て、15年5月より現職。データサイエンスによるより良い未来社会の構築について多方面から注目されている。26年春開校予定のCo-innovation University（仮称）の学長に就任予定。

特定非営利活動法人（認定NPO法人）

ピースウィンズ・ジャパン

ピースウィンズは紛争や災害、社会構造の変化などによって危機にさらされた命に対して
国内外問わず支援活動を行う、日本発祥のNGO（非政府で非営利の民間組織）です。
大西健丞により1996年に設立され、世界各地に支援を届け続けています。

設立
29周年

スタッフ数
621人

事業規模
68億円（2024年度）

累計受益者
28,966,285人
※2025年1月31日現在

累計支援国
41の国と地域

スタッフ国籍
25ヵ国

アイルランド、アメリカ、イギリス、イラク、ウガンダ、ウクライナ、オーストラリア、カメルーン、ケニア、スリランカ、タジキスタン、トルコ、ネパール、ハイチ、パラオ、パレスチナ、バングラデシュ、フィリピン、ミャンマー、モザンビーク、モルドバ、東ティモール、日本、中国、韓国　2024年度

アフガニスタン、アメリカ、イラク、イラン、インド、インドネシア、ウガンダ、ウクライナ、エチオピア、ケニア、コソボ、シエラレオネ、シリア、スリランカ、タイ、トルコ、トンガ、ニジェール、ネパール、ハイチ、パキスタン、パラオ、パレスチナ、バングラデシュ、フィリピン、ブルキナファソ、ベトナム、ミャンマー、モザンビーク、モルドバ、モロッコ、モンゴル、リベリア、レバノン、中国、北朝鮮、南スーダン、台湾、日本、東ティモール、韓国　※2025年1月31日現在

国内事務所

本部 広島県神石高原町

支部 東京事務所、佐賀事務所

代表理事 兼 統括責任者
大西 健丞

1967年　大阪府生まれ
1996年　ピースウィンズ・ジャパンを設立
2006年　ダボス・ヤング・グローバル・リーダーに選出
2024年　公益社団法人経済同友会副代表幹事にNPO代表者として初めて就任。

この世界には「あきらめない集団」が必要だ。

世界中で起きる災害や紛争、多くの人が「解決は無理」と思っている社会課題に対して、
私たちはけっして解決をあきらめません。

海外事業

1996年から紛争や貧困、災害などによる人道危機や、生活の危機にさらされた人々の支援を続けており、世界各地に支援を届け続けています。

延べ受益者数　2024年度　※世帯や地域、動物、学校単位などは含まず

2,824,199人

+8,436世帯+28頭+その他不特定多数

現在の支援地数

27の国と地域

アフガニスタン、アメリカ、イラク、ウガンダ、ウクライナ、ケニア、シリア、スリランカ、タイ、トルコ、ハイチ、パラオ、パレスチナ、バングラデシュ、ブルキナファソ、ベトナム、ミャンマー、モザンビーク、モルドバ、モロッコ、モンゴル、レバノン、台湾、中国、東ティモール、南スーダン、日本

2025年1月31日現在。紛争や災害に対応して緊急支援に入った場合は年度の途中でも支援地数が増加します。

災害支援事業

一秒でも早く、一人でも多くの被災者を助けるために、レスキュー活動から医療・物資・避難所運営支援などを被災地で実施する事業です。

累計出動回数

1996年以降
空飛ぶ捜索医療団
構成団体の活動も含む

75回

災害連携協定締結先

空飛ぶ捜索医療団
構成団体の協定先も含む

61団体

保護犬事業

人間の身勝手によって生み出される犬の殺処分をなくし、動物と人間の共生を実現する目的で運営される、犬の保護・譲渡事業です。

命を救った犬の数

8,655頭

2025年1月31日現在　※「保護犬出入記録簿」から抽出

広島県で犬の殺処分機が動いていない日数

2016年4月1日～2025年1月31日

3,228日間

私たちにできる支援があるなら、

たとえハードルが高くても、

「やらない」という選択肢はありません。

海外事業

海外事業部長 **山本 理夏**
Rika Yamamoto

連動して激変する世界で支援を届け続ける

2024年秋以降、中東情勢が大きく動きました。しかも連鎖的に。改めて世界情勢は関連づけて考えなければいけないと感じる契機になりました。中東ではシリア、レバノン、イラク、トルコ、パレスチナで事業を行ってきましたが、**国や地域で分けるのではなく、もっとつながりを意識しながら考えていく必要がある**と再認識しました。

11月終わりに13ヵ月戦闘が続いたイスラエルとレバノンのイスラム組織ヒズボラとの間で停戦合意が成立し、12月はじめには2代にわたって50年間続いたシリアのアサド政権が崩壊しました。そして2025年1月に入って、1年3ヵ月以上激しい戦いを続けたイスラエルとパレスチナ・ガザ地区のイスラム組織ハマスの間で6週間の停戦が合意されました。

アサド政権の崩壊には、後ろ盾のイランがヒズボラ弱体化の影響を受けたことや、同じく後ろ盾だったロシアがウクライナとの戦争に注力するなど、他国の状況が深く関係していると言われます。そしてロシアとウクライナの関係がどうなるかは、アメリカやヨーロッパの思惑抜きには考えられません。

こうして**連鎖的に動く世界情勢は、当然、私たちの事業に大きな影響を与えます。**シリアでは紛争で傷ついた人びとに心のケアを提供してきましたが、体制転換後どのような支援が必要とされるのか、私たちに何ができるのか慎重に考えていかなければなりません。また、シリア内戦を逃れた人たちをイラクとトルコで支援してきましたが、アサド体制が終わったからといって即座に難民が帰還するわけではありません。**10年以上国を離れている人にとって、とりわけ避難先しか知らない子どもにとって「ふるさと」とは何かをよく考えます。**

レバノンとガザでは、砲火が止んだとしても、長い戦争で多くの命が失われ、街は破壊されました。復興には長い時間がかかり、課題は山積しています。

2025年は状況がもっと不透明になるかもしれません。アメリカの新政権発足に伴って対外支援を行うUSAIDのプロジェクトが凍結されたのは経験したことのない事態でした。複数の事業が中止や規模の縮小など計画変更を余儀なくされました。支援を安定的に継続するため、「ピースサポーター」へのご参加を呼びかけています。

つくづく難しい時代になってきたと思います。私が人道支援の仕事を始めた頃は、国境というものが今よりも曖昧な概念だったように思います。**地図上の国境は存在しても、その見えない線を挟んで暮らしや文化が急に変わるわけではありません。**人びとの生活は地続きでした。でも今、インターネットでみんながつながると、その反作用のように小さな違いが突き詰められて、新たな分断が生まれているように思います。「あっち」なのか「こっち」なのか、人びとがどちらの立場かを選ばざるを得ない状況に追い込まれて、結果として分断が深まっているように感じます。

これまで世界のどこかで緊急事態が起きても、政変があっても、**必要とする人に支援を届ける方策は必ずある**と信じてやってきました。その考え自体は変わりません。同時に、災害をはじめとする国内の緊急事態にも備えを強化していかなければならないと考えています。海外事業、国内事業といった壁を作ることなく、ピースウィンズ全体として対処していきます。ご寄付をしてくださるみなさんのお力を得ながら、新たな状況に対応しつつ、支援を必要とする人がいる限り、私たちにできることを模索し続けます。

レバノン･シェルターに避難している女性と近藤カメラマン

ピースウィンズが取り組む課題 1

紛争･難民支援

パレスチナやウクライナ、アフガニスタン、シリア、ミャンマーなど世界各地での紛争は終わらず、支援のニーズは拡大、多様化の一途をたどっています。紛争や迫害などを逃れて自国を離れた難民の数は1億人を超えています。現地にスタッフを派遣し、提携団体と連携しながら、困難な状況にいる人に対し支援を直接届け続けています。

PALESTINE

パレスチナ　活動期間　2015年～現在

ガザ市民への支援

イスラエル軍による激しい武力攻撃が続き、70%以上の建物が全壊または半壊、避難民190万人、少なくとも4.6万人が死亡し、11万人以上が負傷、1.7万人が行方不明となっている（2025年1月末時点）ガザ地区にて、食料･衛生用品の配付、水、温かい食事の提供、現金給付などの緊急人道支援を実施しました。

Staff Interview

少しでもガザの人びとの支えになれるよう

ガザ地区ではインフラが破壊し尽くされ、あらゆるものが不足しています。その中で私たちの支援が人々の命をつなぎ、少しでも生活の支えとなれるよう活動を続けています。また、自らも紛争の被害者でありながら、活動を続ける現地スタッフや提携団体スタッフ、彼らの姿に心を動かされています。

パレスチナ事業担当

佐藤 久美

MYANMAR

ミャンマー　活動期間　2013年～現在

タイ国境付近での支援

ミャンマー北西部や南東部で、サイクロンや戦闘、経済破綻の影響を受けた国内避難民･ホストコミュニティ住民を対象に食料･生活物資･医薬品の支援を行いました。また、台風「ヤギ」などによる洪水被害を受けた世帯に対して現金配付を行い、食料や医薬品、生活用品を買うための生活再建支援を実施しました。

Staff Interview

国境地域の人々と共に粘り強く!!

ミャンマーでは、4年前の政変から事態は一向に改善されず、避難生活など人道的な危機的状況が継続しています。
このような状況でも、国境地域では、コミュニティーの人々自身が食料を自給しようと奮闘し始めています。
私も彼らと一緒に食料のみならず人々の自立に向け前進していきたいと思っています。

ミャンマー事業担当

辻 富紀夫

ブルキナファソ・市場にいた子どもと稲葉医師

医療・衛生支援

不衛生な環境や水不足などへの対応や、最低限の栄養のバランスが整った食生活を送るための支援は、災害直後の地域だけではなく貧困や社会格差が問題となっている場所でも大切です。急な災害などで地元の医療が対応しきれない場所への医師や看護師の派遣や、地域の医療者と連携しての感染症や生活習慣病などの改善にも取り組んでいます。

BURKINA FASO

ブルキナファソ　活動期間　2023年～現在

B型肝炎対策

首都ワガドゥグー市およびボボ・ディウラッソ市における慢性B型肝炎検査体制支援事業を行いました。慢性B型肝炎罹患者の治療体制の質の向上のために現地提携団体と協働で検査機器を導入し、モニタリングを実施しました。

PALAU

パラオ　活動期間　2021年～現在

船による巡回検診

生活習慣病が社会問題となっているパラオ共和国にて、現地保健省と協力し検診・啓発活動による生活習慣病予防事業、日本人医療従事者の派遣事業を実施しました。また、医療へのアクセスが限られた離島住民が検診を受け、病気の予防や早期発見ができるように、病院船巡回による検診を実施しました。

KENYA

ケニア　活動期間　2012年～現在

月経衛生支援

洪水被害を受けた地域で、災害時に特に脆弱性が高まる女性や女児たちに対して尊厳キットの配布や月経衛生知識の普及を行いました。また、難民と地域住民に対して固形廃棄物の持続的な管理を目指す事業をおこなうと共に、生活の基礎となる水衛生、住居、ロジスティックス、生計支援分野の向上にも貢献しました。

SOUTH SUDAN

南スーダン　活動期間　2006年～現在

水衛生支援

スーダン危機を受けてスーダンからの帰還民や難民の流入が続く中央エクアトリア州と北バハル・エル・ガザル州の難民居住地区において、人々が安全な水へアクセスできるよう、給水所の設置や維持管理を支援しました。また、感染症蔓延予防のため、住民と共に、衛生改善啓発活動も行いました。

上：ベトナム・台風11号被災地に物資を運び込むスタッフ
下：台湾・花蓮地震被災地で物資支援をするスタッフ

環境／気候変動・災害支援

気候変動による大規模な洪水や干ばつ、猛暑や豪雨等の災害が特に甚大化しています。世界各地で発生する地震や津波などの災害に対応し、医療や救助犬チームの緊急派遣、支援物資の提供など迅速に展開しています。物資提供や医療・衛生、教育などの支援だけではなく、災害に対する脆弱性を減らすための農業の再建や地域防災の仕組みづくりなど、中期的な支援にも対応しています。

TAIWAN

台湾　活動期間　2024年～現在

花蓮地震緊急支援

2024年4月に台湾東部花蓮で発生した地震被災地において、震災直後は食料や生活物資の支援、その後地域のスーパーと連携し商品券配付を実施しました。また被災地の少数民族のコミュニティへ心のケア支援や太魯閣国立公園閉鎖により経済的影響を受けた周辺の飲食店に生計支援を行いました。

Staff Interview

日本の皆さんありがとう

「日本の皆さんありがとう」台湾東部花蓮地震の支援現場で交わされた言葉です。支援活動中、感謝の気持ちを日本語で伝えられる場面が多くありました。被災した方の中には、能登や東日本大震災のことを心配する声も頂き、花蓮の皆さんが日本の被災地へ気持ちを通わせている場面も多く胸が熱くなりました。今後も、台湾花蓮地震に寄り添って、被災者の心の支えになるよう支援を続けていきたいと思います。

台湾事業担当
西城 幸江

VIETNAM

ベトナム　活動期間　2024年～現在

台風11号（ヤギ）被害緊急支援

北西部のイエンバイ省を医療チームが訪問し、肝炎の検査活動などを実施しました。2024年9月に上陸した台風11号（ヤギ）によって、大きな被害を受けた地域に対し、食料や生活用品の配付、子どもたちへの学用品の支援を行いました。

Staff Interview

復興に向け、自然災害に強い学校を

電線に草木やビニールなどのごみがひっかかっている風景が物語っていた浸水の高さ、台風の爪痕はいつも脳裏を離れません。学校ごと流れ去ってしまった村もあります。私たちは現在、自然災害にも強い学校を再建していけるよう、各所との連携に奔走しています。台風ヤギの被災から半年が経ちますが、現地では常に変化する環境での復興に向けた日々が続いています。

ベトナム事業担当
小林 葉月

UKRAINE

MOLDOVA

TÜRKIYE

AFGHANISTAN

IRAQ

SYRIA

LEBANON

MOROCCO

UGANDA

MOZAMBIQUE

SRI LANKA

CHINA

BANGLADESH

THAILAND

EAST TIMOR

USA (MAUI,HAWAII)

USA (LOS ANGELES)

HAITI

HOW TO SUPPORT

ピースサポーター

月々 1,000円～

になってピースウィンズの活動全般を支えてください。

毎月の継続的なご寄付により、自然災害の被災者や紛争による難民などに必要な支援を届け、長期的に支えていただく支援プログラムです。

ピースサポーター 検索

https://peace-winds.org/lp/psupporter/

命を見捨てない。
世界の平和をあきらめない。

1 UKRAINE

ウクライナ　活動期間　2022年～現在

戦時下で身体的·精神的苦痛を受けている女性達に巡回診療と心理カウンセリングを行いました。また、経済的に困窮している人々に現金給付と衛生用品配付を実施しました。2024年7月の首都キーウ市大規模攻撃の際には、被害にあった小児科病院や近くの集合住宅の住民に食料や生活物資を届けました。

2 MOLDOVA

モルドバ　活動期間　2022年～2024年

ウクライナ避難民の児童を受け入れているモルドバ首都キシナウ市の公立学校の修繕と学校家具を整備することで教育環境を整え、教員向けの研修や学校に通うモルドバ人とウクライナ人の相互理解を深めるためのワークショップや授業外活動を実施しました。

3 TÜRKIYE

トルコ　活動期間　2023年～現在

2023年の大地震によって大きな損傷を受けたハタイ県イスケンデルン市カラユランの小学校にプレハブ校舎を1校建設しました。また、地震の被害を受けて避難生活を送るキャンプの子どもと保護者のための心理社会的サポートを実施しました。

4 AFGHANISTAN

アフガニスタン　活動期間　2001年～現在

ナンガルハル県では脆弱な世帯への食糧用現金給付と養鶏支援を並行し、食糧アクセス改善による生命の維持とレジリエンス強化を行うとともに、紛争の影響を受けた地域の子どもたちのための教育環境を改善しました。ヘラート県では地震被災者への現金給付支援を継続しました。

5 IRAQ

イラク　活動期間　1996年～現在

イラク北部で避難生活を送るシリア難民に、生計支援を兼ねたシェルター改善やインフラ改善支援を行いました。長年の戦闘でいまだに破壊の影響が深刻なニネワ州の帰還民地域では、職業訓練を実施し、帰還民の生計向上支援を実施しました。

6 SYRIA

シリア　活動期間　2017年～現在

食糧危機がかつてないほどに深刻化したシリアにおいて、困窮する妊婦および乳児を持つ母親と障害者への食料支援および栄養ワークショップを実施したほか、暴力に晒される恐れのある主に子どもや女性を対象に、心理的ストレスを軽減するための心理社会的支援を行いました。

7 LEBANON

レバノン　活動期間　2025年～現在

2024年9月23日のレバノン南部への大規模な空爆開始から、多くの国内避難民、シリアなど隣国への避難者、死傷者が発生し、人口の23%が急性食料不安に直面しているため、ベイルート、レバノン中部と南部で空爆の影響を受けた避難民と地元住民に必要な食料支援を実施しました。

8 MOROCCO

モロッコ　活動期間　2023年～2024年

マラケシュ及び周辺都市部で2023年モロッコ中部地震の被災女児を対象として、月経衛生管理ワークショップを開催して月経衛生管理に関する知識や技術を高め、再利用可能な月経用品などを含む月経衛生管理キットを提供することで、被益者の月経衛生管理の改善に寄与しました。

9 UGANDA

ウガンダ　**活動期間**　2016年～現在

難民居住地区で社会的、経済的に弱い立場に置かれやすい女性たちの保護や生計向上を目的に技術研修を実施しました。さらに男性を含む難民と現地の農家に対しては、研修用のセンターと農地を建設し、農業技術研修を行い、食料不足軽減と生計強化支援を展開しました。

10 MOZAMBIQUE

モザンビーク　**活動期間**　2019年～現在

北部武装勢力の襲撃から逃れて来た国内避難民とその受け入れ地域住民に対し、食料確保や生計手段の回復を支援し、一時的な収入確保だけでない生計活動の基盤作りを目指しました。また、災害被災地では給水衛生施設の復旧や感染症予防として住民への衛生啓発活動を行いました。

11 SRI LANKA

スリランカ　**活動期間**　2009年～現在

トリンコマリー県では循環型農業に興味がある農家に学ぶ機会を均等に提供し、多くの農家が地元で手に入る資源を使って学んだ技術を実践し始めています。またムライティブ県では5つの小規模貯水池の修繕を行い、貧困ライン以下で暮らす家庭の食料自給率を上げるため養鶏と家庭菜園の普及に取り組みました。

12 MONGOLIA

モンゴル　**活動期間**　1996年～現在

貧困や親の育児放棄などの事情で、養護施設「ヴェルビストケアセンター（VCC）」に保護され生活している46人の子どもたちへの支援を継続しました。

13 CHINA

中国　**活動期間**　2025年

2025年1月7日に中国のチベット自治区で発生した地震に対応し、中国の提携団体と連携して、レスキューチームの派遣、緊急支援物資の配付を行いました。

14 BANGLADESH

バングラデシュ　**活動期間**　2017年～現在

97万人以上のロヒンギャ難民を受け入れるコックスバザール県では難民と地域住民から保健衛生啓発活動を担う人材を育て、人々の健康促進行動を支援しました。また、サイクロンや大雨に見舞われた地域では食料や物資の配付を行い、被災者の緊急のニーズに応えました。

15 THAILAND

タイ　**活動期間**　2024年～現在

ミャンマーからの移民や避難民が多い地域で母子支援ボランティアを育成し、育児相談、権利保護、タイ語教育などのワークショップや家庭訪問を実施しました。ミャンマーの避難民が通うタイ北西部の移民学校の子どもたちに衛生用品を届けました。

16 EAST TIMOR

東ティモール　**活動期間**　1999年～現在

コーヒーの買い取りを希望する130世帯を対象に高品質なコーヒー生産のワークショップを実施し、買い付けを開始しました。また、首都ディリで運営するカフェは10周年を迎え、これを機に隣接建物へ移転・拡張し、広い空間と質の高いサービスで国内外のお客様から好評をいただいています。

フェアトレード事業　**活動期間**　2003年～現在

天候不順によるコーヒー不作と、世界的なコーヒー価格の高騰で東ティモールコーヒーに需要が集中し、卸用の生豆が期の途中で完売するなど供給が追いつかない一年でした。また、緊急支援の寄付付きコーヒーや保護犬のアートなど、組織の横のつながりがある商品を多く販売しました。

17 USA (MAUI,HAWAII)

アメリカ（ハワイ・マウイ島）　**活動期間**　2023年～現在

2023年8月にマウイ島ラハイナ周辺で発生した大規模火災の被災コミュニティの対応能力を強化するため、研修やワークショップ、イベントを行い、コミュニティの人々の心理的ストレスを緩和する活動を行いました。

17 USA (LOS ANGELES)

アメリカ（ロサンゼルス）　**活動期間**　2025年

2025年1月8日（日本時間）にロスアンゼルス市周辺で発生した大規模火災に対応し、レスキューチームの派遣および生活物資や衛生用品、空気清浄機など物資の支援を行いました。また現地の動物愛護団体を通じて火事で救出されたペットへの支援を実施しました。

18 HAITI

ハイチ　**活動期間**　2010年～現在

2021年の地震の被害を受けた南部の遠隔地で活動する漁業組合に対し、船や網などの漁具支援、漁業や魚介類加工技術に関する研修を実施しました。また、継続的且つ安定的な組織運営のために組合員の組織強化研修も実施しました。

災害支援事業

一秒でも早く、一人でも多くの命を

災害から守るために、

公的機関ができないことにチャレンジし続けたい。

空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"プロジェクトリーダー **稲葉 基高**

Mototaka Inaba

「よりダイナミックに」新しい災害支援のカタチを創る

2024年は、1月1日に発生した令和6年能登半島地震の緊急支援からはじまり、発足から5年目を迎えた空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"にとって大きなターニングポイントとなる1年となりました。ひとことでいえば、“試練の1年”だったと思っています。

発足当時から「一秒でも早く、一人でも多くの命を救う」ことを理念に掲げ活動を続けてきたなかで、**能登半島地震の支援ではその想いをひとつのカタチにできた**と思っています。おかげさまで認知度は高まり、多くの方からご支援をいただけるようになったとともに、合同訓練や研修などで他団体からお声がけいただいたり、登録隊員（ロスター）の人数も倍以上に増えたりもしました。チームは確実に成長し、何よりも**活動を通じて信頼してもらえるチームになった**ことは、今後の活動を大きく前進させる、飛躍できた1年になったと思っています。

同時に、周囲からは大きな“期待感”も感じるようになりました。それはこの上なく嬉しいことであり、誇りでもありますが、急速に環境が変わり、現実的には“成長”よりも“期待”が先行してしまっているのではないかと感じています。

災害医療支援船”Power of Change”（チェンジ号）にて洋上で行われた多機関連携訓練の様子

能登半島での支援活動は、その前年2023年5月に起きた震災の際にも同じ珠洲市へ支援に入り、協働しなければならない現地の方々との関係性がある程度築けていたことでいろいろなことがスムーズに進み、私たちにとって大きなアドバンテージとなりました。言い換えれば、**同じことを別の新しい被災地ですぐにできるかといえば、そう簡単なことではありません。**どの災害支援でも周囲からの期待にしっかりと応えていくためには、いま一度足元を見直し、常に能登半島での活動以上の支援ができるように、さらなる体制強化を図ることが今年の大きな課題だと思っています。

そのためには、もしも南海トラフ地震あるいは首都直下地震が今起きたらどうするか、**リアルな災害を想定した訓練を繰り返し行い、個々のスキルとチームの組織力、そのすべての面においてアップデートしていく**必要があります。

一方で、大規模災害になるほど、空飛ぶ捜索医療団のチームだけで支援できる範囲には限界があるという現実も突き付けられました。今後の大規模災害に備え、よりスケールの大きい支援を目指すためには、他団体との連携をさらに強化していくことが重要です。

これまでは、災害支援の現場では官民の連携が必要不可欠だと考え、積極的に政府が主催して行われる訓練やDMATの訓練などに参加し、関係性を築いてきました。官ができる大きな支援と、民間だからこそできるきめ細やかな支援が重なれば、より多くの命を救うことができます。こうした連携をさらに推し進めるために、**これからは“産官学民”の連携強化を目指します。**“産”は企業の力、“学”は大学や研究者などのアカデミアの力。“官民”の連携に“産学”も巻き込んで、4つのステークホルダーを私たちのようなソーシャルセクターがハブとなって繋げていくことができれば、**災害支援はスケールアウトしてよりダイナミックな支援体制ができるはず**だと考えています。

訓練ではチェンジ号船内に設置された指揮所と広島県DMAT活動拠点本部を結び、情報の伝達・共有に関するシミュレーション等も行われた

一秒でも早く、一人でも多くの命を災害から守るために、公的機関ができないことにチャレンジし続け、**常にイノベーティブな災害支援のカタチ**をこれからも模索し続けていきたいと思います。

2024年度の活動

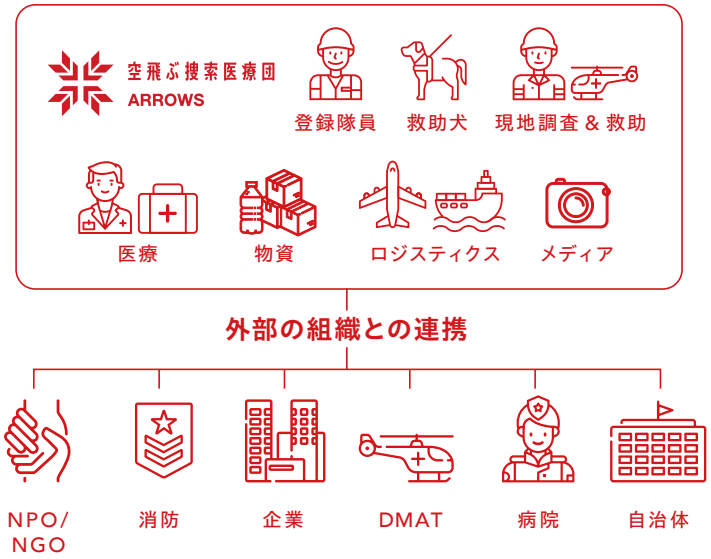
空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"事業

活動期間　2019年～現在

令和6年能登半島地震で課題となったロジスティクスの改善を目指し、医療・航空部門と連携した実働訓練に加え、定期訓練や公的機関の訓練に参加し連携を強化するなど国内外の災害に即応できる体制を維持しました。災害対応は国内1件（令和6年奥能登豪雨）、海外4件（台湾東部沖地震、ベトナム豪雨、モザンビーク洪水、ロサンゼルス山火事）の5回チームを派遣しました。

空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"とは

ピースウィンズは2011年の東日本大震災をはじめ、国内外の被災地で支援活動を展開してきました。そして2019年、「一秒でも早く。一人でも多く。」をモットーに、災害緊急支援プロジェクト「空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"」を発足。医療、捜索・救助、ロジスティクス、メディアなどのチームで構成され、公的機関とも連携します。災害大国・日本において、あらゆる力を集結し、一人でも多くの命を救う取り組み。それが「空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"」です。



主な出動歴

- **2011.3** **東日本大震災**
  ピースウィンズ緊急支援チーム出動
- 2014.8 広島豪雨
  災害救助犬含むレスキューチームが初出動、行方不明者2名を発見
- 2015.4 ネパール地震
- 2016.4 熊本地震
- **2018.7** **西日本豪雨**
  ピースウィンズ緊急支援チーム出動
  専属医師として稲葉 基高初出動、医療支援を実施
- 2018.8 インドネシア・ロンボク島地震
- 2019.8 北部九州豪雨
- **2019.12** **空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"結成**
- 2020.1 新型コロナウイルス
  日本及び中国の医療機関等へ人的・物資支援を実施
- 2022.3 ウクライナ危機による避難民支援
- 2024.1 令和6年能登半島地震

Staff Interview

私たちの支援には多くの温かい想いが込められていると感じています。能登の震災から1年以上が経過した現在も不自由な生活が続く被災者の方に「ともに乗り越えましょう」と活動を通じて寄り添い伝えられていることに、感謝の気持ちでいっぱいです。
引き続き、災害関連死を防ぐ「コミュニティ支援」などで被災者の健康を守り、復興に向けて地域をつないでまいります。

看護師
木下 真由香

HOW TO SUPPORT

ARROWS サポーター

月々 1,000円～

になって 災害緊急支援活動を 支えてください。

「空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"」の活動は、全国のみなさまのご支援・ご寄付によって支えられています。一秒でも早く、一人でも多くの被災者を助けるために、長期的に支えていただく支援プログラムです。

ARROWSサポーター 検索

https://arrows.peace-winds.org/lp/asupporter/

災害医療支援船
“Power of Change”

大規模災害時に陸路が寸断された場合、必要な物資や医療支援を迅速に届けることが難しくなる可能性が高まります。2023年7月に導入した日本初の「民間災害医療支援船“Power of Change（チェンジ号）”」では、傷病者への臨時診療や被災者の受け入れ、物資や燃料の補給などあらゆる支援を補うことで、未治療死や災害関連死を減らす「最後の砦」としての役割を担います。

スペック

長さ／68.00m　幅／17.40m　喫水／4.50m（計画）、5.02m（最大）　最大航続距離／6,000マイル（8ノット）
最大搭載人数／49名　巡航速力／12ノット（経済速力8ノット）　建造／2011年

2024年度の活動

東日本大震災被災者支援

活動期間　2011年～現在

地元提携団体の「相馬救援隊」と連携し、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う避難生活から故郷に戻った人たちや、新たに福島での生活を始めた人たちなどが、相双地域で昔から受け継がれてきた馬との交流を通じてつながりをもつことができるように支援しています。

西日本豪雨被災者支援

活動期間　2018年～現在

被災地に寄り添い続けて6年。復興段階では防災減災事業をはじめ、被災後に再建された集会所への備品提供や、地元団体へのキャパシティビルディングなどを行ってきました。そして地域の方々の居場所作りを目的として開始した、被災家屋「土師邸」の再建工事が2024年4月、ついに完了しました。現在は多世代の住民に親しまれる場として多くの人で賑わっています。

能登半島地震被災者支援

活動期間　2024年～現在

元日の震災、9月の豪雨被害など相次ぐ災害に見舞われた奥能登。看護師や災害支援に豊富な経験をもつスタッフが常駐し、一日も途切れることなく支援活動を続けています。緊急期では機動力を最大限に活かし医療、捜索・救助、避難所運営支援、物資支援などを実施。現在は仮設住宅への家電支援や、「災害関連死」を防ぐための戸別訪問、地域コミュニティ支援、生活再建相談などを実施。今後は子どもたちへの支援なども行う予定です。

地域防災力強化事業

活動期間　2019年～現在

地域住民や自主防災組織、自治体職員を対象に、防災啓発イベントや研修会の開催、被災地域への視察研修を行い災害にも強い地域コミュニティづくりを継続的にサポートしています。また災害現場で支援者となりうる医療従事者やNPO職員などを対象に研修会や訓練の開催を行い、知識技術の向上と支援者間の関係性構築に取り組みました。本年度は関係地域を北海道の利尻島や沖縄の先島諸島まで広げ、地域を超えて学び合える関係性づくりに努めました。

最大の成果は、

共に歩んでくれる仲間が全国に増えたこと。

すべての保護犬が家族と一緒に幸せに暮らす、

そんな世界を

本気でつくりたいと思っています。

保護犬事業

プロジェクトリーダー　安倍 誠
Makoto Abe

犬の保護・譲渡事業

Peace Wanko Japan
ピースワンコ・ジャパン ワンコとヒトの幸せのために

活動期間　2010年～現在

2012年にピースワンコ・プロジェクトを始動してから12年。これまでに8,600頭以上を保護し、4,700頭以上を譲渡につなげてきました。現在は全国約8万人のサポーターに支えられ、広島県のドリームボックス（殺処分機）は、稼働停止を8年以上にわたって維持することができています。また2024年度は、香川県や福岡県からの保護・引き出しも開始し、7月には「福岡譲渡センター」を新設するなど、四国・九州地方にも活動を展開しました。「全国殺処分ゼロ」の実現を本格的に目指し、他県の行政や団体と提携し、野犬のトレーニング・譲渡の仕組みづくりに取り組んでいます。

保護施設・譲渡センター

施設は現在、全国で11ヵ所

神石高原シェルターで保護し、健康状態を良くして、人馴れトレーニングを行った犬が、各譲渡センターで暮らしています。スタッフが日常のお世話をしながら、里親希望の方に保護犬の特徴や性格などをご紹介しています。

神石高原シェルター

ピースワンコ・ジャパンの本拠地は、自然豊かな広島県神石高原町にあります。広々とした西日本最大級のドッグランもあり、犬と人がのびのびと遊べます。

News 1　能登半島地震ペット支援 必要な支援を現地へ

2024年1月1日に石川県能登地方で発生したマグニチュード7.6、最大震度7の大きな地震は、人間だけではなく犬や猫、鳥などの動物たちにも大きな被害をもたらしました。ピースワンコは発災の翌週、1月8日からペット緊急支援チームを現地に派遣。能登半島最北端の珠洲市を拠点に、フードやペットシートなどの物資支援を始め、ペット同伴避難所や日中預かり施設の運営、生活再建までの一時預かりやトリミング支援などを実施。「ペットも大切な家族」だからこそ、必要とされる様々な支援活動を展開しました。

News 2　全国初！受刑者の「保護犬育成プログラム」始動

ピースワンコは、保護犬トレーニングを通じた受刑者指導プログラムを展開し、社会復帰と更生を支援しています。2024年12月、法務省広島矯正局と連携し、刑務所における新たな取り組みとして「保護犬育成プログラム」を開始しました。保護犬の人馴れを促進させると共に、受刑者が保護犬とふれあう機会の創出により、心身の健康と社会適応能力の向上を目指します。殺処分対象となった犬を保護し、人馴れトレーニングを施して新たな飼い主につなげる活動を行ってきたピースワンコが、そのノウハウを活かして実現した全国初の試みとなります。

このプログラムでは、保護犬とのお散歩の仕方やおやつを食べさせるタイミングなど、基本的なしつけと信頼関係を築く方法を学びます。「保護犬とふれあい、彼らと信頼関係を結び、人と共生できるようにトレーニングして社会へ送り出す」という本プログラムは、社会復帰を目指す受刑者にとっても大変有用な機会となると考えています。また、人間への警戒心が強い元野犬の人馴れを加速させることで、「人と動物が共生できる社会」の実現に貢献していきます。今後も様々な形で、社会課題の解決に取り組んでまいります。

News 3　猫の支援活動「ピースニャンコ」が始動

猫の殺処分数は、1年間で6,899匹（環境省調べ）にものぼり、犬の殺処分数の約3倍。その多くがまだ小さな子猫です。この現状を踏まえ、私たちは新たに猫の支援活動「ピースニャンコ」を開始しました。「ピースニャンコ」は、提携する保護猫ボランティアの方々への医療支援を主な活動とし、保護された猫たちの動物病院への搬送や譲渡促進も行っています。

ピースワンコへの応援メッセージ

Message 1
紗栄子さん

Profile：タレント、モデル、実業家。牧場「NASU FARM VILLAGE」を経営し、動物保護活動を行う。また、「一般社団法人 Think The DAY」代表を務め、災害支援など様々な社会貢献事業に取り組む。

自然と動物と人が、
永く持続可能に共生していける未来を

2020年から19頭の馬と牧場を引き継ぎ、数頭の保護犬たちも引き取って活動を始めました。2022年にはピースワンコの神石高原シェルターを訪れ、人馴れトレーニングや老犬たちのお世話をお手伝いしました。現在はグッズ販売の寄付や合同譲渡会を主催して、馬、犬、猫の殺処分をなくすプロジェクトを支援しています！
馬も犬も人間も、みんなかけがえのない大切な命。2024年は被災地支援として、ピースウィンズの台湾花蓮地震支援にも、法人からの寄付を届けました。これからも「人も動物もボーダーレス」に、様々な形の支援ができればと思っています。

Message 2

俳優
西尾 まりさん

推定4歳だった女の子「繰（せつ）ちゃん」。内に秘めたキリリとした強さ、たくましさがたまらなく魅力的で、ピースワンコから家族に迎えました。少しずつ心を開き、わがままや甘えを見せてくれる成長に感動しています。「繰」が、私たち家族を選んでくれたんだと思います。

Message 3

お笑いタレント／
俳優／声優／彫刻家
片桐 仁さん

先代犬に似ていた、元野犬の女の子「ちゃこ」と出会い家族に迎えました。あまりに可愛くて、もう一頭「はな」もすぐ迎えることに。そんな2頭を彫刻デザインに起こし、「#元保護犬今過保護犬」の魅力を作品にしました。殺処分のない未来の実現を、共に願っています。

犬と人の未来を信じて、みんなが幸せになれる環境をつくるために

譲渡サブマネージャー
立崎 真紀

ー新卒でピースワンコに入職し、様々なキャリアを経て戻ってこられた経緯を教えてください！

学生時代は専門学校でドッグトレーニングを学びながら、災害救助犬育成サークルに入っていました。先生に勧められてピースワンコの神石高原シェルターでインターンをして、「保護犬に関わるならここだ！」と思い、2016年に新卒で入職しました。入職当初は、広島のシェルターで飼育スタッフとして働きながら、救助犬ハンドラーの訓練を重ねていました。トレーニングを通して保護犬と心を通わせ、関係を共に成長させていくことがとても楽しかったです。

その後は、引き出されてすぐの犬たちが運ばれてくる検疫犬舎の担当になりました。当時は保護数がとても多く、状態の悪い犬や乳飲み子たちを毎日夜遅くまでケアしていました。たくさんの保護犬と接してきて、もっと獣医療を学びたいと思うようになり、3年目で一旦ピースワンコを離れて動物病院に転職することにしたんです。病院では手術の助手を務めたり、ゆりかごから墓場まで、あらゆるペットに寄り添うことができました。その後、ペット霊園でも働いて亡くなった子を送り出したり、本当に色々な経験をしてきました。一見バラバラなようですが、私にとっては「保護犬のために」という想いはずっと変わりなく、全部が繋がっているんです。

そしてまた、保護・譲渡の活動に携わるようになり、ちょうどコロナ後でピースワンコの譲渡が伸び悩んでいた頃に、立て直しを手伝ってくれないかとお声がけいただいて戻ってきました。

ー「譲渡サブマネージャー」に就任して、今後はどのような目標を掲げていますか？

2023年に世田谷センターの店長となり、その後、関東エリアの責任者として浜松・西東京拠点のオープンを担いました。これまでたくさんの保護犬たちを新しい家族に繋げてきて、里親さんからワンコ達の幸せそうな報告を聞く度に本当に嬉しく、保護犬の可能性も感じてきました。

全国の殺処分を減らすためには、やはり“譲渡”が要です。ピースワンコの活動を全国に展開して、他の地域や団体にも貢献できれば、殺処分数も保護数も減らしていけると思っています。そしてゆくゆくは、“譲渡センター”そのものが必要なくなって、トレーニング用の施設や里親さんのアフターフォローが出来る場所にしていきたいです。ワンコとその家族、地域みんなが幸せになれるような環境をつくるために、これからも挑戦を続けていきます！

HOW TO SUPPORT

ワンだふるサポーター

になってピースワンコ事業を支えてください。

ピースワンコ事業を継続的にご支援いただくプログラムです。保護した犬の新しい飼い主が見つかるまでの飼育や災害救助犬の育成費用などに使わせていただきます。

月々 1,000円～

ピースワンコ　寄付　検索

https://peace-wanko.jp/support

日本もネパールも、

へき地の農村が抱える課題は同じ。

お互いに学び合いながら、

両国で次の担い手を育てていきたい。

国内事業

海外農業研修生受け入れ事業担当　山内 誠

Makoto Yamauchi

海外農業研修生受け入れ

活動期間　2023年～現在

事業概要

ネパールでは、2015年の大地震以降、活動を続けています。現在は、中山間地域・へき地の農村で提携団体と協力し技術指導をおこなっています。伝統的な自家消費用栽培から、換金作物栽培へ移行し、現金収入の向上と人口流出の減少を目指しています。また、毎年農業グループのリーダーを、同じく中山間地域・へき地である広島県神石高原町に招聘し、研修・交流の機会を設けています。

2024年度の活動

ネパールでの技術指導や、来日研修生の受け入れを継続しました。また、2025年春からピースウィンズの本部がある神石高原町で農業・畜産関係の仕事をすることになったヘマンタさんの来日に向けた準備をおこないました。地元企業さんや、受け入れ機関との橋渡しをし、彼が神石高原町で農業の担い手として活躍し、スキルをネパールに持ち帰ることができるよう下地作りを行いました。

Staff Interview

私が生まれ育った神石高原町は、2025年3月現在で人口が7764人です。10年前には1万人を超えていました。2050年には約3700人にまで減ると言われており、このままでは本当に人がいなくなってしまいます。特に農業をしている人はみな高齢者ばかりで、あと10年経ったらいなくなってしまいます。
神石高原町に外国人は約160人いますが、製造業・介護等の仕事をしており、農業従事者はヘマンタが初めてになります。彼が核になって、農業人口が増えてくれたらいいなと切に願っています。
そして、単に一作業者ではなく、次の時代の地域のリーダーになって、ネパールと日本の橋渡しになってくれることを期待しています。

海外農業研修生受け入れ事業担当
山内 誠

Message

2023年に半年間日本に滞在し、農業研修を受けました。今回は、自分のスキルと能力を向上させるために日本で数年間過ごしたいと思っています。将来的には、山内さんと一緒に小さな野菜のビジネスを始められたらいいなと思っています。

海外農業研修生
Hemanta BKさん

佐賀伝統工芸振興

活動期間 2015年～現在

ふるさと納税での寄付を原資に佐賀の伝統工芸事業者を支援しています。商品開発プロジェクトでは新作発表の場として東京での合同展示会に出展。また、今までの伝統工芸支援のノウハウを生かし能登半島地震支援も実施。有田陶器市で被災地の工芸品である輪島漆器や珠洲焼を展示販売し、九州の方にも身近に感じていただきました。

能登半島地震チャリティーイベント

2024年4月29日から5月5日まで佐賀県有田町で開催された有田陶器市において、能登半島地震チャリティーイベントを行いました。イベントでは、パネルや動画を通して能登の伝統工芸事業者の想いを紹介し、能登の工芸品の寄付金付き販売、輪島塗や珠洲焼を使用したコーヒーの提供を実施しました。

HOW TO SUPPORT

「ふるさと納税」をご利用いただけます。

ピースワンコ・ジャパン事業や佐賀伝統工芸事業、災害緊急支援事業などピースウィンズのいくつかの事業はふるさと納税でのご支援も可能です。ご寄付が一定額までなら、2,000円を除いた金額が所得税・住民税から差し引かれます。詳しくはポータルサイト「ふるさとチョイス」をご覧ください。

ピースウィンズ ふるさと納税 検索

地域創生（広島県神石高原町・島根県海士町）

活動期間 2015年～現在

広島県神石高原町では、神石高原ティアガルテンの運営協力や、神石高原地域創造チャレンジ基金のサポートを続けました。島根県海士町では、産業振興の取り組みや地域のにぎわいづくりの事業を支援するための基金の創設に向け、準備を進めました。

馬の保護

活動期間 2018年～現在

スタッフを出向させている福島県の連携団体とともに、元競走馬などの再トレーニングを続けました。乗馬体験やレッスン等のサービスを提供する他、馬糞を活用した農作・馬耕や馬搬など馬と働くこと・馬に携わる人の育成に取り組みます。引き続き地域の伝統神事である相馬野馬追にも参加しています。

現代アート

活動期間 2014年～現在

瀬戸内海の豊島で建設を進めていた現代アート事業CCA Islandsのギャラリーがほぼ完成しました。今後、国内外のアーティストの制作・展示や、アート関係者の交流の場として活用します。

沖縄・八重山地方の音楽家の足跡を記録する「Retrace−音をたどる」プロジェクトでは、民謡の歌い手など3人のインタビューを収録した書籍を出版しました。

地域医療支援

活動期間　2015年～現在

本部がある広島県神石高原町では、高齢化率が50%を超える一方で医療人材が慢性的に不足し、地域の医療サービスを維持することが年々難しくなりつつあります。ピースウィンズは、住民の健康と安心を守るため、町などの関係者と密に連携し、主に3つの取り組みを通じて地域医療に貢献しています。

「この町で健康に暮らす」を支える3つの取り組み

看護師の派遣

町立病院と町立神石へき地診療所に医師・看護師や医療事務職員が出向き、診療のサポートを続けました。今後の他地域での支援も見据えて、新たに労働者派遣事業の許可を取り、町立病院には2024年12月から看護師6人を交代で派遣しています。これまでは看護師が少なく、急な災害対応などで病院勤務ができなくなることもありましたが、より手厚くニーズに応えられるようになり、喜ばれています。

地域看護団体のサポート

病院になかなか行けない過疎地の高齢者らの健康を守るため、神石高原町の看護師が立ち上げた団体の活動をサポートしています。定期的な自宅訪問による見守りと看護、健康管理のアドバイスや相談対応など、医療保険や介護保険の制度の枠外できめの細かいサービスを提供しています。住民の声を丁寧に聞きながら、生涯にわたり地域の中で安心して暮らせる仕組みづくりを目指します。

健康啓発活動

神石老人福祉センターで毎月2回、高齢者介護研究会が「認知症予防カフェ」を開催。ピースウィンズの看護師も高齢者介護研究会の一員として活動に参加しています。また、将来どんな医療や介護を受けたいかを患者自身が主体となって計画できるように支援する「アドバンス・ケア・プランニング」(ACP)の町の普及推進員に稲葉医師が任命され、住民向けの講演会などを開いています。

教育・子ども支援

活動期間　2022年～現在

ピースワラベ
peace warabe

生まれ育った環境や経済的な理由で夢をあきらめてしまう子どもたちに、留学体験や学習支援、異文化交流を提供することで、教育の格差を解消し、未来を切り拓く力を育てます。特に、児童養護施設で育ち自立を迫られる子どもたちに寄り添い、希望の灯をともす活動を通じて、「あきらめない」選択肢を広げ、彼らが夢を追い続けられる未来を支援します。

未来を切り拓く、子どもたちへの学びと支援のプログラム

児童養護施設の子どもたちに海外留学の機会を提供し、視野を広げリーダーシップを育成する「Study in America」プログラムを実施。「子どもアドボカシー」をテーマに、公聴会や現地の社会的養護団体との交流を通じて、自己表現や社会課題への関心を促進しました。また、貧困や教育格差、虐待などの課題に対応する助成事業も行い、困難を抱える子どもたちの夢を支援しています。

ツアーが変えた、ひとりの夢と成長の物語

ツアー参加前、児童養護施設の先生になりたい夢を周りに言えず、自分に自信が持てなかった参加者がいました。しかし、参加後「施設はどうあるべきか？」と真剣に考え、夢を堂々と語れるようになり、進学を決意。ツアーを通じて一人の参加者が夢を見つけ、成長し、他の子どもたちに影響を与えるリーダーへと変わりました。これからも、彼らのような子どもたちが自信を持ち、未来に向かって羽ばたけるような支援を続けていきます。

HOW TO SUPPORT

毎月1,000円からご支援できるサポーター制度があります。皆さんのご支援で、1人でも多くの子どもたちの夢を実現へと導くことができます。あなたの温かいサポートが、未来を切り拓く力に変わります。共に、子どもたちの希望を育てるお手伝いをしていただけませんか？

ピースワラベ 寄付　検索

この世界には
「あきらめない集団」が必要だ。

グループ
団体

ピースウィンズは、日本に加え、アメリカ、韓国、そして台湾で、
国境を越えた支援体制を構築しています。
これは、単なる支部という枠組みを超え、共通の理念のもと、
より広く多様な社会課題の解決に取り組むための体制です。

世界中で絶えることのない紛争や災害に、
心折れず、「あきらめない集団」として――。

「自分になにかできることはないか」と考える世界中の人と手を取り合い、
ピースウィンズは支援の輪を広げていきます。

Peace Winds Taiwan

ピースウィンズ・台湾

2025年2月にピースウィンズ・台湾が設立されました。ピースウィンズ・台湾はアメリカ、韓国に続く第三の海外法人であり、メンバーには医療やレスキューのバックグラウンドを持つ人材も多く揃っています。今後、2024年に地震の被害があった台湾花蓮への長期的な支援を継続することに加えて、これから起き得る様々な地域での、災害や人道危機に対する幅広い活動ができる組織になることを目指しています。

和平之風

Message

医療の専門性と情熱を掛け合わせて

私は長年、台湾において災害医療や人道支援に取り組んできました。これまでの経験から、災害に対応するためには、医療だけでなく、地域のレジリエンスや防災意識の向上も重要な課題であると実感しています。ピースウィンズ・ジャパンの長年の知見に、私自身の医療の専門性と情熱を掛け合わせ、ピースウィンズ台湾では「人を中心とした災害対応」を軸に、訓練・復興支援・国際連携を進めていきたいと考えています。

ピースウィンズ・台湾
代表
蕭 雅文

令和6年能登半島地震の被災者と

Peace Winds America

ピースウィンズ・アメリカ

ピースウィンズ・アメリカはピースウィンズの一員として、ピースウィンズ・ジャパン、ピースウィンズ・コリアと緊密に連携し、世界中で発生する災害や人道危機に対応しています。私たちはアメリカのワシントンD.C.に拠点を置く、米国法で課税を免除された非営利団体です。

2024年度の活動

シリア難民の子どもに新しい車いすを贈呈（イラク）

イラク・クルディスタン地域におけるシリア難民支援を継続し、同地域で暮らす約10万人の難民に対して、工具の貸し出しサービス、職業訓練、ならびに障害を持つ人々のためのアクセス改善支援を提供しました。このプログラムは、日米協力による外国援助事例です。

また、アメリカの寄付者から多額の資金を調達し、ピースウィンズ・ジャパンの令和6年能登半島地震および台湾花蓮地震への対応を支援するとともに、ミャンマー、ハイチ、パラオ、マウイにおける活動も支援しました。2025年1月にはロサンゼルスの山火事への対応のためチームを派遣しました。

Message

実感した「アメリカと日本の結びつき」

この一年で強く実感したことは、日本とアメリカの同僚たちがいかに深く結びついているか、そして両国の社会がいかに密接に繋がっているかということでした。

年初、私たち全員が能登半島地震への対応に全力を注ぐ形で始まりました。多くのアメリカの方々が日本の復興支援に向けて寄付を申し出てくださったことに心から感動しました。そして年度の終わりにロサンゼルスで発生した山火事への対応は、ある意味で象徴的な出来事だったように思います。この活動は日本人の皆さまから寄せられたご寄付によって実現しました。

アメリカ政府が政府開発援助（ODA）資金を削減するという突然の決定により、多くのプログラムを終了せざるを得なくなるという危機もありましたが、ピースウィンズ・アメリカはピースウィンズ・ジャパンとの密接な繋がりのおかげでこの混乱を乗り越えることができています。

ピースウィンズ・アメリカ代表

ジェームズ・ギャノン

Peace Winds Korea

ピースウィンズ･コリア

ピースウィンズ･コリアは、「平和」という共通の目標に賛同する人々が集まり、朝鮮半島およびアジア太平洋地域における持続可能な平和の実現を目指して活動している非営利団体です。
2020年11月に設立された当団体は、災害･感染症などの緊急事態における人道支援活動に加え、国際交流･若者の育成･平和教育にも力を入れています。特に若い世代の参加を重視し、次世代を担う人材と共に、分断の克服と共存･協力の道を切り開くことを目指しています。

2024年度の活動

中部地方 集中豪雨被害 緊急支援事業

2024年 7月、全国的な集中豪雨により深刻な被害が発生しました。
ピースウィンズ･コリアは、西大田、論山、清州を中心に水害被災者の生活再建を支援しました。生活物資パッケージの配布、除湿機･扇風機の貸出による住居乾燥、熱中症予防対策に加え、中古の洗濯機や冷蔵庫の提供を通じて被災者の生活回復を支援しました。

災害対応教育プログラムの実施

2024年下半期、ピースウィンズ･コリアは全国各地で約30回にわたり、災害対応に関する教育プログラムを実施しました。本プログラムでは、基本的な災害時の避難方法、気候危機および複合災害への理解、非常用持ち出し袋に関する「ステッカーブック」教材の活用などを主なテーマとしました。
これにより、参加者が「災害は遠い出来事ではない」という認識を持ち、実際の災害発生時にも冷静かつ的確に対応できる力を養うことを目的としています。

Message

グローバルな人道支援の一翼として

ピースウィンズは、国境やイデオロギーを越えて人道的連帯の価値を実現し、世界中で苦しんでいる人々に希望を届けています。私はピースウィンズという名のもと、苦しみや危機の中でも人間の尊厳を守ろうとするこの使命に、深い誇りを感じています。
ピースウィンズ･コリアもまた、グローバルな人道支援の一翼として、アジアを越えて世界に向けた連帯と実践に責任ある役割を果たしてまいります。すべての人がつながっているこの地球において、誰一人取り残されることのないよう、ピースウィンズの名のもとに共に歩んでいきます。

ピースウィンズ･コリア 事務局長
イ･ドンファン

企業連携

ピースウィンズはこれまで、幅広い業種・規模の企業・団体と連携して、
国内外の社会課題の解決に取り組んできました。
経験豊富な専門部署のスタッフが「社会貢献をしたい」という企業のニーズと、
社会課題の現場におけるニーズをマッチングし、支援の現場に届けています。

寄付　共同プロジェクト　企業版ふるさと納税　物資寄贈

企業連携
特設ページ

海外事業

株式会社LIXIL × ケニア

持続可能なインパクト創出へ

2018年からトゥルカナ郡カクマ難民キャンプ・カロベエイ統合居住地区で、LIXIL社及びUNICEFと連携し、トイレから湧く虫や悪臭を防ぐ「簡易式トイレシステムSATO Pan」や「手洗いステーション SATO Tap」を軸に衛生向上に取り組んでいます。2024年には国際的な人道支援フォーラムである「AidEx」で連携の成果を発表しました。

価値創造への取り組み

INPUT［支援活動］	OUTPUT［支援実績］	OUTCOME［支援成果］	協働事業によるIMPACT［支援による影響］
● 現地調査 ● 衛生ショップ「Duka-Safi」設立の支援 ● 開発途上国向けSATO製品の販売支援	● Duka-Safi計12店舗設立 ● SATO Pan, StoolおよびTapを合計4,550ユニット販売	● 訓練を受けた難民120名が運営するDuka-Safiによる難民キャンプの衛生環境改善 ● 104,500名の生活を改善	● 安全で衛生的なトイレの拡充 ● 難民世帯の衛生及び健康の向上 ● 難民キャンプにおける持続可能な衛生サービスを提供する仕組みの創出

パナソニックホールディングス株式会社 × パレスチナ

命を繋いだパレスチナ・ガザ地区支援

パナソニックグループとしての寄付や従業員のカフェテリアポイント寄付で災害や紛争の都度、活動を支えていただいています。国内の自然災害等に比べてどうしても身近に感じづらく、寄付が集まりにくい海外の人道危機。そんな中、ピースウィンズが緊急人道支援を続けるガザ地区の紛争被害者に向けていただいた法人寄付は、日々移り変わる情勢を見ながら行う生活用品や食料の緊急配付などに柔軟に役立て、人びとの命を繋ぐことができました。

保護犬事業

NSW株式会社

従業員の共感を呼ぶ「殺処分ゼロ」への寄付

社会貢献活動の拡充を検討する中で、身近な社会課題として保護犬の活動に共感し、会社として少しでも力になりたいとの想いからピースワンコにご寄付をいただきました。国内最大級の活動規模や「日本の犬の殺処分ゼロ」を目指す姿勢を評価し、複数の候補から比較検討した上で選んでくださいました。

教育・子ども支援

サントリーホールディングス株式会社

企業版ふるさと納税を活用して事業と子どもたちの成長を見守る

サントリーが注力する「次世代エンパワメント活動“君は未知数”」の一環で、島根県海士町への企業版ふるさと納税により、児童養護施設や島しょ部の子どもたちを海外に送り出すStudy in America事業をご支援くださいました。事業のミッションに共感し、帰国報告会に参加するなど、継続的に伴走いただいています。

災害支援事業

デル・テクノロジーズ株式会社

大規模災害の都度、グローバルで取り組む「マッチング寄付」

ピースウィンズからいち早く届く現場の情報を受けて迅速に国内外に告知くださる社内募金はグローバル企業ならでは。会社が同額を上乗せするマッチング寄付方式で令和6年能登半島地震・奥能登豪雨支援に寄付を届けていただきました。自然災害などのたびに実施する社内募金が「いつもの支援方法」として浸透していることが、同社の活発な社会貢献活動に繋がっています。

株式会社セブン&アイ・ホールディングス

支援を身近にする「セブンマイルプログラム寄付」

セブン&アイグループ各社・提携企業店舗のお買物でマイルが貯まる会員向けサービス「セブンマイルプログラム」の選べる寄付先に空飛ぶ捜索医療団を登録いただいており、奥能登豪雨や台湾地震の際には現地での活動に対して緊急支援の寄付先が設けられました。お客様から託された寄付をいち早く被災地に届けたいとの想いから、集まった寄付が支援にかたちを変えて現場まで届くスピードに共感いただいています。

空飛ぶ捜索医療団 コーポレートマンスリーサポーター制度がスタート!

2024年夏、災害緊急支援の活動を支えていただく新しいパートナーシップのかたち、「空飛ぶ捜索医療団コーポレートマンスリーサポーター」が始まりました。民間の支援団体が不確実性の高い自然災害に常に備え、人や装備、技術の維持・向上を図るには、災害が発生する前=平常時からの資金面での下支えが欠かせません。毎月のご寄付は、迅速な出動や専門的な活動を実現するための体制づくりや訓練などに活用されます。
ご一緒に、民間のリソースを最大活用した災害対策の実現を目指してくださる企業・団体様のご登録をお待ちしています!

コーポレートサポーター紹介

株式会社細川洋行

コーポレートマンスリーサポーター第1号「できることがあれば何でも協力したい」

令和6年能登半島地震をきっかけに、第1号のコーポレートサポーターとして登録いただきました。「ニーズが移り変わる災害現場で、最も必要な支援に柔軟にかたちを変えられる経済的な寄付が何よりありがたい」とのスタッフの声を聞き、サポーターとして支えることができて嬉しいとお話しくださいました。

株式会社アサヒファシリティズ

社内で災害支援の専門チームを編成 密な連携で協働の可能性を模索

竹中工務店グループで建物維持管理に取り組む同社は、社内に災害支援の専門チームを編成し、自然災害への本格的な準備を進めています。登録にあたっては、経営層の皆様が率先して空飛ぶ捜索医療団の理念や活動に理解を深めてくださいました。今後は、災害時の協働の可能性についても検討していきます。

株式会社ゼンショーホールディングス

能登半島地震支援などの協働で「信頼できるパートナー」と実感

災害支援のほか、国際人道支援やフェアトレードなど、幅広い事業を長年にわたりご支援いただいています。能登半島地震の被災地での協働後、今後の災害を見据えてサポーターに登録くださいました。「有事の際の機動力・即応力に優れ、信頼できるパートナー」と実感したことが決め手となったそうです。

企業や団体からのご支援

ピースウィンズは企業や団体の皆さまを大切なパートナーと考え、積極的に連携しています。
2024年度には1,000を超える法人から、金銭的な寄付のほか、
物資の寄贈、社員ボランティアの派遣など、様々なかたちでご支援をいただきました。

株式会社 チェンジホールディングス	ロート製薬株式会社	日本たばこ産業株式会社	一般財団法人 ホシザキ新星財団	株式会社 ファーストリテイリング	一般社団法人 Think The DAY	J.S.Foundation	フォーエバーリビングプロダクツ ジャパン	パナソニック ホールディングス 株式会社	株式会社ゼンショー ホールディングス
株式会社すき家	連展科技株式会社	東武タワースカイツリー株式会社	ブックオフコーポレーション株式会社 「キモチと。」	株式会社セブン&アイ・ ホールディングス	オイシックス・ラ・大地 株式会社	大和ハウス工業株式会社	株式会社クレディセゾン	アマゾンジャパン合同会社	NSW株式会社
MFSインベストメント・ マネジメント株式会社	KOA株式会社	ソフトバンク株式会社	株式会社ドワンゴ	株式会社ブロンズ新社	シャディ株式会社	三井化学株式会社	三井化学ちびっとワンコイン	片山鉄建株式会社	ティースタイル株式会社
FJホールディングス株式会社	株式会社クラレ	株式会社TAKANO ESTATE	株式会社TK	株式会社 データ・アプリケーション	株式会社ユナイテッドアローズ	木村眼科クリニック	リコージャパン株式会社	株式会社アサヒファシリティズ	株式会社 デファクトスタンダード
株式会社 フレックスインターナショナル	東京ガス株式会社	一般社団法人MDRT日本会	エイベックス・アライアンス& パートナーズ株式会社	株式会社カネスエ商事	サントリーホールディングス 株式会社	株式会社 THE DOG COMPANY	株式会社新生工業	全国友の会	デッカーズジャパン合同会社
株式会社ドリームゲート	nina神石高原	株式会社ニューエスト	一般財団法人ピーくん財団	FESTIVIN事務局	株式会社細川洋行	株式会社マザーハウス	丸中製菓株式会社	三菱電機関連労働組合連合会	一般財団法人 スマイルハート基金
ディップ株式会社	住友三井オートサービス 株式会社	アンカー・ジャパン株式会社	株式会社finetrack	株式会社Red, Gold & Green	株式会社ARIGATOBANK	LINEヤフー株式会社	READYFOR株式会社	株式会社 ワンモア (GREEN FUNDING)	

Apple　Japan合同会社／株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ／Bloomberg　L.P.／ブレインワークス株式会社／医療法人社団杏樹会よこやま耳鼻咽喉科／株式会社SK&P／株式会社プリュスエス／株式会社祐真／芸夢YAMAMOTO株式会社／大喜貿易株式会社／敦賀断熱工業株式会社／Le Abel／株式会社リコー／ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社／一般社団法人シェア基金／株式会社さくら酒店／株式会社アケボノスタジオ／株式会社エージェント・インシュアランス・グループ／シロウマサイエンス株式会社／合同会社十三月／株式会社マキヤ／株式会社ヒロコーヒー／株式会社東京サマーランド／株式会社TOKYO　FUTON　COMPANY関東／株式会社ロワール／株式会社ワットマン／株式会社マックスガイホールディングス／医療法人ロコメディカル江口病院／株式会社エンチョー／岡山県美咲町役場／沖縄県嘉手納町役場／株式会社アークビルド／株式会社エイチアールインスティテュート／株式会社ジェネシア・ベンチャーズ／宗教法人在日本南プレスビテリアンミッション淀川キリスト教病院／日本マクドナルド株式会社／富士フイルムビジネスイノベーション株式会社／株式会社OVERVIEW　COFFEE　JAPAN／三菱電機住環境システムズ労働組合／プレマ株式会社／合同会社sister market／高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン実行委員会／株式会社東京ドーム／株式会社PREWAN／JRひがし労／株式会社さいたま建設／テクマトリックス株式会社／スーパーブルーム有限会社／VES合同会社　アネス動物病院／CLALA　JAPAN株式会社／株式会社イグナイト／株式会社エポスカード／株式会社せとうちクルーズ　ガンツウ事業部／パタゴニア・インターナショナルインク日本支社／レジアスインパクト株式会社／一般社団法人JINLUCKサポーターズ／株式会社kawacoya／光琳寺／山口精工株式会社／株式会社油忠地所／PwCコンサルティング合同会社／株式会社カラーズ　GREEN DOG & CAT／福岡酸素株式会社／株式会社ダイワテック／若築建設株式会社／株式会社曙建設　その他、多くの法人様よりご支援をいただきました。

2024年度 助成団体・パートナー団体

外務省・日本NGO連携無償資金協力／国際協力機構／Republic of Palau／米国国務省 Bureau of Population,Refugees,and Migration／ECHO／USAID Bureau for Humanitarian Assistance／IOM／UN-Habitat／UNHCR／UNICEF／United Nations Population Fund／UN Women／ベネッセこども基金／大東建託グループ みらい基金／フェリシモ基金／Give2Asia／ひろしま国際センター／日本国際協力財団／ジャパン・プラットフォーム／ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ／クラレ財団／maaaru／SATO,part of LIXIL／トヨタ財団／Water Dragon Foundation／ゆめ風基金

メディア掲載事例

ピースウィンズは、支援の現場を広く伝えることを大切にしています。YouTubeなどSNSで積極的に発信を行ったほか、多くのメディアにも取り上げられました。

テレビ

2024

2.8	テレビ新広島	「絶対生きて出すんだ」倒壊した住宅から93歳女性を124時間ぶりに救出　広島の医師が語る能登半島地震
2.19	NHK	クローズアップ現代「あなたのお金が社会を変える 広がる“遺贈寄付”」
4.4	広島ホームテレビ	地震後初めて台北便到着 県内NPOも救助活動 広島
6.17	NHKワールド	Direct Talk: Saving as Many Lives as Possible: Inaba Mototaka / Medical Doctor, Project Leader of ARROWS （一秒でも早く、一人でも多くの命を救う：医師、空飛ぶ捜索医療団ARROWSプロジェクトリーダー稲葉基高）
9.7	オランダ公共放送局	Zo bereiden Japanners zich voor op een mega-aardbeving 日本人はこうして巨大地震に備える
10.2	NHK	ニュースウォッチ9 “二重被災”で厳しい避難生活を送る人たちは…

新聞／雑誌／Webメディア

2024

3.15	朝日新聞デジタル	経済同友会、副代表幹事にピースウィンズ大西氏ら4人、NPOから初
3.18	日本経済新聞	空飛ぶ救急医、被災地奔走 東日本大震災の悔しさバネに
3.28	朝日新聞	（ひと）橋本笙子さん 能登地震の被災地で支援活動を続けるNGOの現地責任者
6.27	毎日新聞	「雨漏りする玄関で寝ている」在宅被災者 過酷な避難生活 能登地震
6.28	朝日新聞	（ひと）大西健丞さん NPO界から経済同友会の副代表幹事に就任した
10.24	Forbes JAPAN	いま注目のNPO50　日本を動かし社会を変える、新たな主役「災害支援のプラットフォームへ　目指す『国民全体のコレクティブインパクト』」

2025

1.12	中国新聞デジタル	「受刑者の更生、保護犬との触れ合いで　尾道・松江刑務支所、NPO法人と連携し開始」

ラジオ

2024

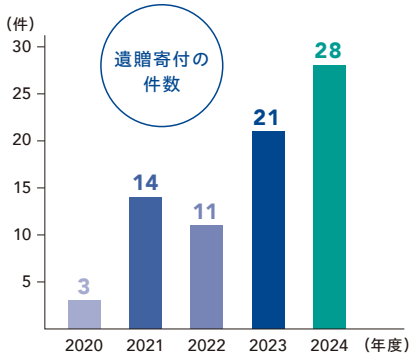
4.30	TBSラジオ「荻上チキ・Session」	ガザで深刻化する飢餓。私たちはどう支援していけばいいのか
9.5	TBSラジオ「荻上チキ・Session」	能登半島地震から8カ月～復興の現状と課題

ほか多数

私たちの活動を支える重要な一部になりつつあります。

遺贈寄付

遺産の一部または全部を公益活動などに寄付する遺贈寄付。災害医療支援チームで、平時の訓練や装備を支えていただいたり、保護犬や保護猫事業の新しい展開に使わせていただいたこともあります。今年度は、ご相談数も前年の1.5倍に増え、関心の高まりにこたえた、相続・遺贈寄付セミナーの開催、エンディング・ノートの作成、ニュースレター「My WILL」の発行なども行いました。



「My WILL」では、現場で働くスタッフの思いや遺贈寄付のご準備に役立つ情報を、定期的にお伝えしていく予定です。

雑誌「AERA」の特集記事や、新聞社の遺贈寄付セミナーにも、マネージャーの榛田が登場しました。

Voice　父の想い、紛争地の人々に届けたい

父から相続した財産の中から寄付しました。ウクライナからの避難民支援に役立てて欲しかったからです。父は幼少時の自分と同じく、戦争で苦しんでいる人たちのために遺産から寄付してほしいと話していましたので、父の気持ちにそって寄付することにいたしました。このご寄付が、少しでも命を守る助けになれば父もきっと喜ぶだろうと思います。

ご相談に応える体制づくり

司法書士や行政書士の資格をもつ担当者を配置し、倫理ガイドラインも制定して遵守しています。提携している金融機関等は下記の通りです。

広島銀行　三井住友信託銀行　SMBC 三井住友銀行

MUFG 三菱UFJ信託銀行　READYFOR

遺贈寄付ご相談係のご紹介

どんなことでも遠慮なくご相談ください。

榛田
Harita
マネージャー。
丁寧にお話を
うかがいます。

磯野
Isono
お困りのことが
あれば何でも
ご相談ください。

遺贈寄付
特設ページ

会計まとめ

2024年度の経常収入は68億52百万円となり、前年度の71億91百万円から5%減少しました。この背景には、寄付金や会費収入、事業収益が前年比18%増と好調だったものの、補助金・助成金等収入が前年比で25%の大幅な減少となったことが主な要因として挙げられます。

収入の内訳を見ると、会費収入が前年比17%増と大きく伸長しました。会員数が1年間で71,630人から81,168人へと着実に増加したことが貢献しました。また、特定寄付も前年比31%増と大きく伸びました。特に、保護犬事業、能登事業（地震・洪水）、ARROWS事業、台湾事業への支援が厚く、寄付金は16億69百万円に達しました。事業収益も、フェアトレードの増収に加え、業務受託が増加したことで増収となりました。2025年度も業務委託や派遣事業などを通じて、さらなる収益増を見込んでいます。

一方、補助金・助成金等収入が23%減少しました。前年度はウクライナ関連事業への補正予算により12億円規模の事業を実施したことで収入全体を押し上げていましたが、2024年度はウクライナ事業が縮小したことが影響しました。2024年度の主な助成金事業実施国は、ケニア（9億円）、イラク（4億9千万円）、ミャンマー（2億5千万円）となりました。2025年度は、2025年1月に発表された米国の対外援助の縮小による影響が懸念されています。

会員数や寄付金の増加といった明るい要素がある一方で、外部環境に左右されやすい助成金収入の減少という課題に直面しています。今後の事業戦略において、これらの要素をどのようにバランスさせていくかが鍵となります。

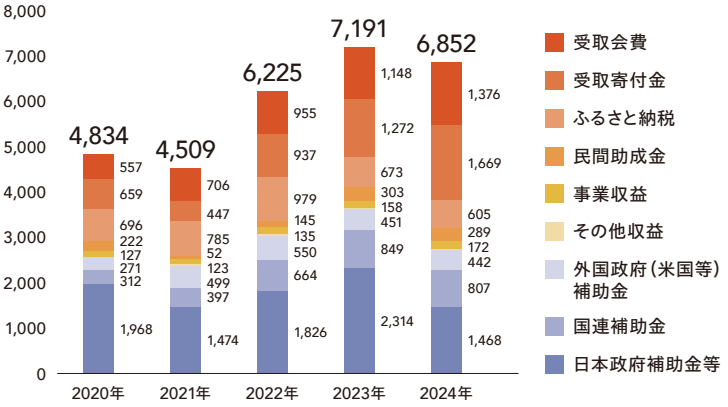
支出では、経常支出が前年度から4.5%減少して68億52百万円となりました。収入に応じた支援活動に加えて、今後発生する災害への準備として緊急支援ロジスティックスの強化や拠点整備にも力を入れています。

助成金・補助金や会費、寄付金、及びふるさと納税によるご寄付の一部は、次年度以降の事業のために繰り越されています。

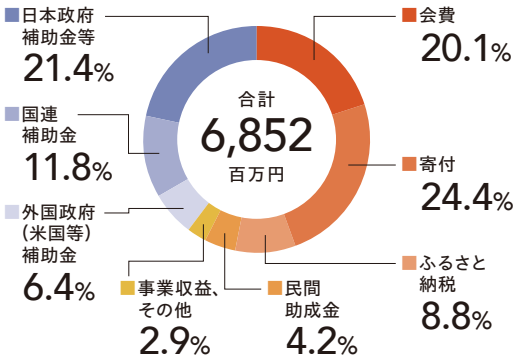
経常収入の推移及び内訳

2024年度の補助金・助成金収入の割合は43.9%（前年度より-10.6）に対して、寄付・会費・ふるさと納税による収入が合わせて53.3%（前年度より+10.2）となりました。

5年間の収入推移（単位：百万円）



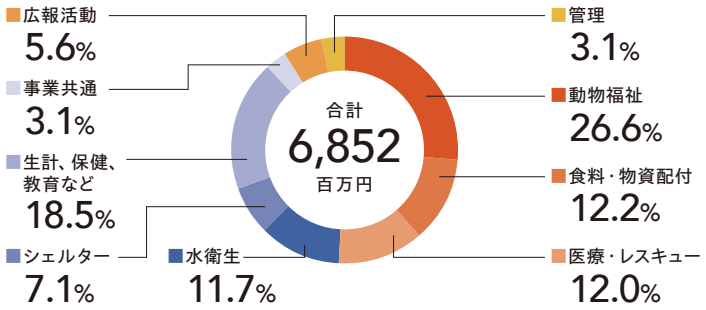
収入内訳



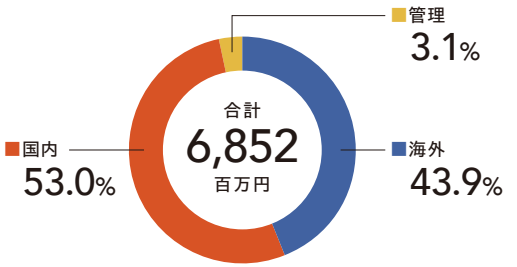
経常支出の内訳

2024年度の経常支出をセクター別に分けると、1位は国内の保護犬事業26.6%（前年度より+2.5）、2位は災害支援で配布する食料・物資支援の12.2%（前年と同じ）、3位は医療・レスキュー支援の12.0%（前年度より+3.0）となりました。海外事業と国内事業の比率は、海外事業が43.9%（前年より-10.2）に対して、国内事業は53.0%（前年より+9.8）となり、国内事業への支出が海外事業への支出を上回りました。

セクター別支出額



海外・国内別支出額



第26期事業年度　活動計算書　2024年（令和6年）2月1日～2025年（令和7年）1月31日

科目		金額（円）		
Ⅰ 経常収益				
1. 受取会費	正会員受取会費	1,640,000		
	賛助会員受取会費	690,000		
	ピースサポーター	52,329,969		
	ワンだふるサポーター	1,195,599,829		
	ワンだふるファミリー	79,065,200		
	ARROWSサポーター	40,645,396		
	ARROWSメディカルサポーター	969,000		
	ピースニャンコサポーター	2,611,222		
	その他受取会費	2,537,900	**1,376,088,516**	
2. 受取寄付金	受取一般寄付金	72,337,456		
	受取特定目的寄付金	1,583,192,054		
	物品･現物等寄付収入	13,497,586	**1,669,027,096**	
3. 受取助成金等	ふるさと納税交付金	605,288,031		
	受取民間助成金	1,390,016,324		
	受取補助金	366,211,963		
	国連等補助金	1,248,370,865	**3,609,887,183**	
4. 事業収益	フェアトレード事業収益等その他売上	96,531,638		
	業務委託	43,083,937		
	その他事業収益	32,261,838	**171,877,413**	
5. その他収益	受取利息	4,401,038		
	雑収益	20,443,918	**24,844,956**	
経常収益計				**6,851,725,164**
Ⅱ 経常費用				
1. 事業費	(1) 人件費			
	給料	996,654,339		
	賃金	51,304,341		
	法定福利費	140,879,130		
	福利厚生費	6,701,286		
	退職給付費用	5,176,980		
	海外現地スタッフ人件費	484,515,017		
	人件費計	**1,685,231,093**		
	(2) その他経費			
	直接事業費	2,075,113,653		
	交付助成金	40,771,201		
	仕入高	47,893,746		
	地代家賃	221,546,118		
	事務所維持費	115,541,938		
	水道光熱費	70,501,665		
	リース料	154,892,536		
	車両レンタル	34,984,116		
	通信費	26,269,684		
	旅費交通費（海外）	130,588,493		
	旅費交通費（国内）	111,265,079		
	広報啓発活動費	542,522,812		
	外注費	589,308,127		
	手数料	140,148,857		
	ふるさと納税お礼関連費用	21,456,704		
	寄付金	43,439,214		
	減価償却費	110,916,965		
	その他の費目	474,719,088		
	その他経費計	**4,951,879,996**		
事業費計			**6,637,111,089**	

科目		金額（円）		
2. 管理費	(1) 人件費			
	役員報酬	100,000		
	給料	72,850,904		
	賃金	1,898,240		
	法定福利費	30,563,981		
	福利厚生費	1,396,855		
	退職給付費用	10,744,839		
	人件費計	**117,554,819**		
	(2) その他経費			
	地代家賃	18,028,452		
	事務所維持費	711,617		
	水道光熱費	4,490,560		
	リース料	1,784,694		
	通信費	3,150,247		
	旅費交通費（国内）	2,274,835		
	外注費	13,441,868		
	手数料	3,684,697		
	減価償却費	3,270,681		
	その他の費目	46,309,583		
	その他経費計	**97,147,234**		
管理費計			**214,702,053**	
経常費用計				**6,851,813,142**
当期経常増減額				**▲87,978**
Ⅲ 経常外収益				
	固定資産売却益		9,277,454	
	有価証券評価益		416,400	
	為替差益		19,339,385	
経常外収益計				**29,033,239**
Ⅳ 経常外費用				
	固定資産除却損		14,785,908	
	助成金返還額		4,863,419	
	支払利息		64,251,441	
	有価証券評価損		116,800	
	その他経常外費用		435,925	
経常外費用計				**84,453,493**
税引前当期正味財産増減額				**▲55,508,232**
法人税、住民税及び事業税				**1,157,300**
当期正味財産増減額				**▲56,665,532**
前期繰越正味財産額				**689,564,580**
次期繰越正味財産額				**632,899,048**

第26期事業年度　貸借対照表　2025年(令和7年)1月31日時点

資産			
科目		金額(円)	
Ⅰ 資産の部			
1. 流動資産	現金預金	886,890,033	
	海外現金預金	514,490,480	
	売掛金	11,557,397	
	商品	39,464,076	
	貯蔵品	56,329,036	
	未収入金	154,780,205	
	未収収益	4,649,348	
	立替金	1,463,361	
	前払金	20,252,980	
	前払費用	19,064,640	
	仮払金	264,632,101	
	未収補助金等	55,763,149	
	預け金	5,096,530	
流動資産合計			**2,034,433,336**
2. 固定資産	建物	318,276,569	
	建物付属設備	117,008,632	
	構築物	97,172,579	
	車両運搬具	5,956,705	
	工具器具備品	74,499,111	
	機械装置	5,041,890	
	船舶	32,574,503	
	生物	262,506	
	土地	32,914,038	
	美術品	559,139,021	
	図書	12,685,468	
	リース資産	53,883,060	
	建設仮勘定	201,665,346	
	有形固定資産計	1,511,079,428	
	電話加入権	385,392	
	商標権	157,390	
	水道施設利用権	149,384	
	借地権	2,164,500	
	ソフトウェア	2,081,086	
	無形固定資産計	4,937,752	
	子会社株式	5,594,700	
	投資有価証券	48,425,600	
	長期貸付金	93,271,852	
	長期前払費用	3,714,584	
	敷金及び保証金	35,840,818	
	保険積立金	10,926,300	
	投資その他の資産計	197,773,854	
固定資産合計			**1,713,791,034**
資産の部合計			**3,748,224,370**

負債及び正味財産			
科目		金額(円)	
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債	仮受金	9,934,179	
	未払金	497,599,756	
	未払費用	2,316,769	
	預り金	16,933,227	
	前受金	1,018,128	
	短期借入金	300,000,000	
	1年内返済予定長期借入金	194,880,000	
	前受助成金等	643,787,684	
	未払法人税等	1,157,300	
	未払消費税等	3,818,200	
流動負債合計			**1,671,445,243**
2. 固定負債	退職給付引当金	73,013,522	
	リース債務	55,832,040	
	長期借入金	1,314,987,000	
	長期前受収益	47,517	
固定負債合計			**1,443,880,079**
負債の部合計			**3,115,325,322**
Ⅲ 正味財産の部			
	前期繰越正味財産額	689,564,580	
	当期正味財産増減額	▲56,665,532	
	正味財産		**632,899,048**
正味財産の部合計			**632,899,048**
負債の部及び正味財産の部合計			**3,748,224,370**

ピースウィンズは、青木幹雄公認会計士事務所による外部監査を受けております。

財務諸表及び外部監査報告書の全体は
掲載のURLまたはQRコードより
ウェブサイトにてご確認いただけます。

https://peace-winds.org/about/report

特定非営利活動法人

ピースウィンズ・ジャパン

ピースウィンズ　検索

ピースウィンズ・ジャパン

@PeaceWindsJapan

@peacewindsjapan

本部事務所

〒720-1622 広島県神石郡神石高原町近田1161-2 2F
TEL.0847-89-0885（代） FAX.0847-82-2949

東京事務所

〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷2-41-12 富ヶ谷小川ビル2F
TEL.03-5738-8020（代） FAX.03-3465-2112

佐賀事務所

〒840-0831 佐賀県佐賀市松原1-3-5 まるなかビル6F
TEL.0952-20-1607（代） FAX.0952-20-1608

Company Profile

■名称 ： 特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン ■設立 ： 1996年2月 ■法人格取得 ： 1999年10月 ■スタッフ数 ： 計621人（国内スタッフ311人、海外現地スタッフ310人） ■代表理事 ： 大西 健丞
■理事：石井 宏明 桑名 恵 渋谷 健司 三宅 登志子 山本 理夏 ■監事：川合 孝一（2025年1月末現在）

meet@peace-winds.org https://peace-winds.org

寄付金控除の対象です

ピースウィンズは「認定NPO法人」として広島県に認定されています。これによりピースウィンズへのご寄付は税金控除の対象となります。（正会員会費は対象外です。）

ご寄付は大切に使います

皆さまからのご寄付は、世界中の支援を必要としている人々のために大切に使わせていただきます。ピースウィンズの寄付金等取扱規程はWEBサイトでご覧いただけます。

お問い合わせは、支援者サービス係までご連絡、もしくはピースウィンズのWEBサイトをご覧ください

0120-252-176

平日 10:00～17:00

ピースウィンズ 受付　検索

https://peace-winds.org/support